

オオバ

# 新中計 売上147億目標

## 再生エネ、農業分野拡大



辻本社長

オオバは10日、公共事業の増加や景気回復などで売上高、利益ともに現中期経営計画の目標を2年目で上回る見通しのため、2014年5月期から3年間の新計画を策定した。辻本茂社長は、「売上高に占める民間の割合がいまは3割だが、4割程度に伸ばしたい」と述べた。

最終年度の数値目標（連結ベース）は売上高147億円（前期実績123億円）、營業利益7億円（3億円）、経常利益（同）、当期利益6億円（2億円）に設定した。重点施策は、震災復興などまちづくり、防災・減災の国土強靭化のほか、区画整理事業の業務代行に参画することで収益の向上、再生可能エネルギーと農業分野のコンサルに業務領域拡大を挙げている。新たな事業領域として、東京五輪の関連業務開拓と五輪

後を見据えたまちづくりを提案とともに、地方自治体が保有する公共施設の全体最適化と都市のリノベーションの複合提案など自治体関連業務を拡充する。海外事業にも積極的に取り組み、インドネシアで現地企業とのJV方式は、MMS（車両計測）やGI

S（地理情報システム）を使った技術営業の強化、スマートコミュニティなど環境技術を使った大規模施設の跡地・空き地の有効活用による土地利用転換業務を展開。技術面は環境に配慮したまちづくりや都市機能の集約化によるリノベーション・マネジメント業務の拡大、プロジェクト・マネジメントなど専門技術力を強化する。

# 建設通信新聞

2014/01/14 掲載 1面